



江南小だより

八戸市立江南小学校 学校だより
令和5年4月7日発行
通算第544号

みんなでつくる、みんなの江南小

校長 笹川 力

「至急速達」の桜の便りが、新しい年度の始まりに華やぎを添えてくれます。本日24名の新入生を迎え111名となりました。子どもたちの、はつらつとした表情と共に令和5年度のスタートです。



さて、令和5年度の江南小学校の目指す学校像を「みんなでつくる、みんなの江南小」としました。

学校の主役は言うまでもなく子どもたちです。子ども一人一人の「よさ」と「可能性」を引き出し、将来のよき社会人として自立に向けた基礎を培うのが学校です。そのためには、子どもたち一人一人が主体性をもって物事に関わり、自己有用感、自己肯定感を高めていく必要があります。「みんなでつくる」の「みんな」の第一義は子どもたちです。

それを支援し、指導していくのが教師。教師の力量次第で子どもは変わると言われます。決めつけた指導ではなく、力任せの指導ではなく、実態を把握した上で児童一人一人に応じた指導に努めていく。ただし、教師一人の力量ではなく、学校としての組織力を発揮して取り組むことが必要となります。次の「みんな」は学校の教職員集団です。

ただし、多様性が尊重され、変化の激しい現代社会では、学校だけで子どもを育てることはできません。保護者の力、地域の力が不可欠です。学校と保護者、学校と地域が同じ方向を向いていないと教育効果をあげることはできません。また、学校に力を貸していただくことも多々あるかと思えます。第三の「みんな」は、保護者や地域の方々です。



「みんなでつくる」に期待することの一つに、身近にいる大人がお手本となる姿を見せるということがあります。「子どもは大人を見て育つ」。子どもたちのために力を合わせ、明るく活気に満ちて活動する大人たちの姿は、子どもの成長に必ずプラスに働きます。

若者の結婚離れの報道を見るたびに、「子どもを育てる楽しさ」「かけがえのない喜び」そういったことを、今の若者に十分に伝えてこなかった私たち親世代の責任もあるのではないかと思ってしまう。学校という場で協働することが、これからの社会を担う子どもたちにとって有意義な空間をつくり出すということを信じて、1年間取り組んでまいりたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。